

2011年

2月 No.340

SINCE 1977

発行所/〒380-0813 長野市緑町1714-5

長野市ボランティアセンター内

Tel:026-227-3707 Fax:026-224-1513

URL <http://vnetnagano.or.jp>

E-mail:volucen@vnetnagano.or.jp

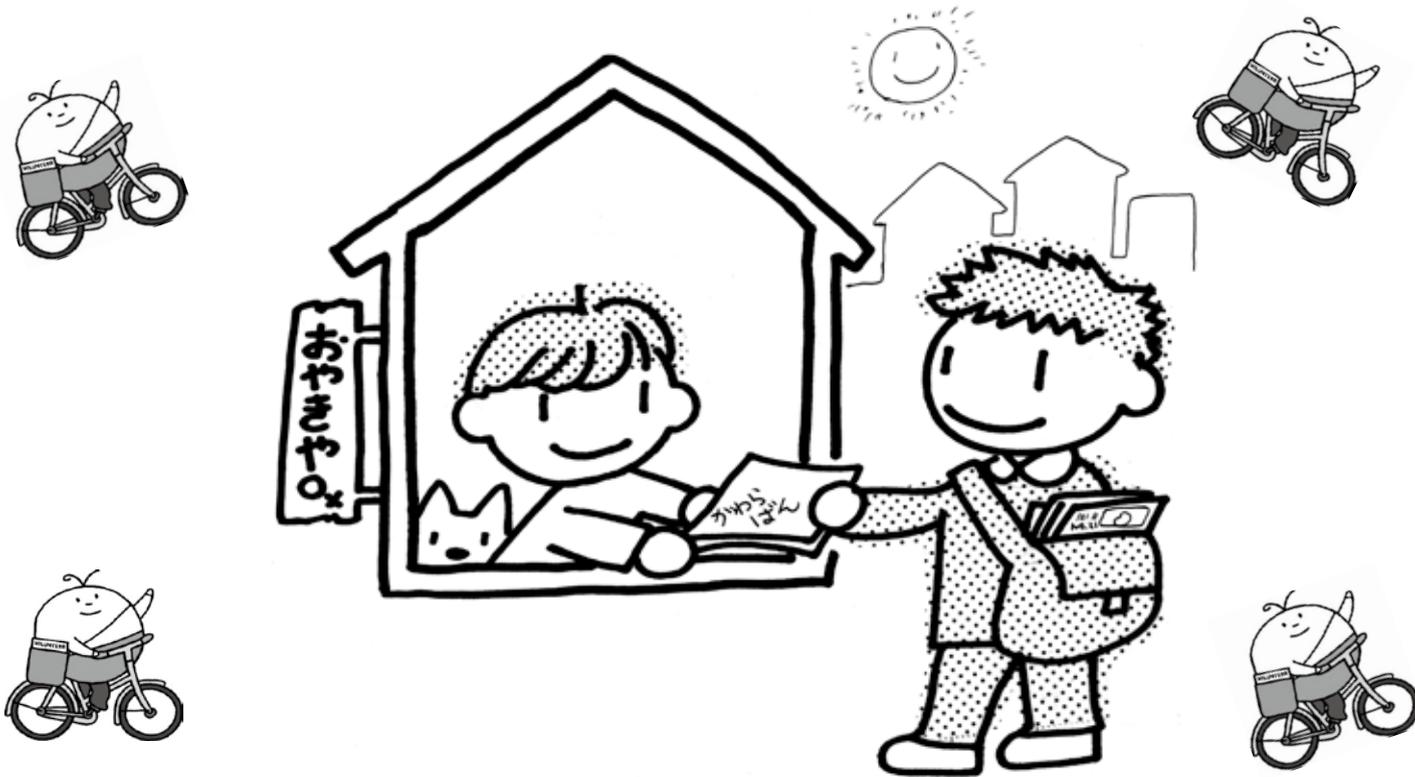


ボランティア かわらばん

編集
発行

ながのボランティアかわらばん編集委員会

「かわらばん」 私たちが届けています



今回340号を迎えた「ボランティアかわらばん」は、1977年8月に創刊して以来、33年間発行を続けています。ボランティア同士をつながりを作りたい！ボランティアのことを知ってもらいたい！一緒に考えてほしい・・・さまざまな思いを持って始まったかわらばんは、取材から編集、発送まで多くのボランティアの皆さんによって支えられてきました。その形は、30余年を経た現在も、変わることなく続いています。

今まさに「ボランティアかわらばん」を手にとって読んでくださっている皆さんに、このかわらばんは、どのように届いたでしょうか？ 郵送で届いた、施設やお店でもらった、あるいはボランティアセンターで、と様々な方法で届いているかと思っています。

今回は、かわらばんを個人のお家やお店、会社などへ手持ちで配達しているボランティアの皆さんをご紹介します。

▼ みんながネットワーク

このかわらばんは信販販売センターのご好意で一部の地域へボランティアで配布いただいています。

「ボランティアかわらばん」は共同募金のご協力で発行しています。

「かわらばん」 私たちが届けています!



からだにもいい活動?!

永野誠さん

きっかけは、いつも利用していた施設で手に取ったかわらばんでした。「配達者募集!」の記事を見て「自分でも出来るかな?」と思い、4、5年前にまずは家の近くのコンビニに届けたのが始まりでした。現在は6か所の施設へ仕事帰りに配達しています。配達を続けている理由をお聞きすると、「いろいろな場所へ届けることで、定期的に外に出て動き回れる。こうして体を動かせることが、自分の体にとっても良いのかな?」思っている。一度始めたことだから、特に出来ない理由がない限りは続けたいと思います。」と笑顔で話してくれました。



読んでもらうことが喜びです

宮尾暁俊さん

かわらばん配達を昨夏から毎月継続している宮尾さん。きっかけは、ボランティアセンターに来ている時に、センターの方が配達しに行くというのを聞いたこと。それなら自



ボランティアには物語がある

宮下克彦さん

きっかけは9年前。仕事が休みの日や夜にできるボランティアを探して、ボランティアセンターを訪れました。実は、宮下さん自身障がいをもっています。お父さんも障がいがあり、ボランティアに興味をもったのだそうです。

今は、主に長野市内のローソン各支店にかわらばんを配っています。仕事の行き帰りなどに気軽にできるので、続けていられるとのこと。そのほかにも仕事の顧客からの寄付をボラセンにつないでくれていて、取材の日も子ども用の椅子を持ってきてくれました。物品を持って施設に届けに行き、施設を見学させてもらうことも楽しみの一つなんだとか。仕事にも活かせるし、自分が社会を知ることにつながると思っているとのこと。

「ボランティアをしている人には、始めた時、やっている中での感動など、必ず物語があると思うよ。かわらばんで載せたら?」と提案してくれました。



活動を続けて22年!

(株)信毎販売センター

昭和63年の夏、創業20周年を迎えた信毎販売センターでは、「地域があつてこそその企業、つながりを大切にしたい」と、一過性ではない、地域のためになるお手伝いをしようとして「ボランティア活動実施委員会」が発足しました。新聞を各戸に配るといふ配達ネットワークの強みを活かして何かできないだろうか・・・と考え、①ふくし長野の配布②ボランティアかわらばんの配布③ロータスクーポンの収集という三本柱を進めることになりました。市内営業所約70名の社員さんによって、手配りで412カ所にかわらばんが届けられることになったのです。「企業の社会福祉活動は当時としては大変珍しい事だった」と、部長の高木利弘さん。当時の様子がボランティアかわらばんのNo.75号(1989年1月1日発行)に『強力助っ人あらわれ

強力助っ人あらわれー。

「(株)信毎販売センターは、昨年10月1日、創立20周年を迎えられました。そこでより地域に親着し、各社様へお礼にあらわすべく、「かわらばん」を配達していただくことになりました。『強力助っ人』のご協力も、ボランティア活動の一助にはなれれば幸いです。と、有り難いことです。ぜひ、うれしいことですよ。今後も、よろしくお問い合わせください。又、1階の「配達基地」にての(株)信毎販売センターをご利用下さい。ご協力をよろしくお願いいたします。」



る!』と記載されていました。

また、「この強力な助っ人の皆さんのおかげで郵送料が減り、増刷が可能になりました。銀行や商店など、それまで届ける事の出来なかつたところへも新しく発送することが可能になり、大変嬉しいことです」と、かわらばん編集委員会から喜びの声が届いたことも、信毎販売センターボランティア活動実施委員会の記録に残されていました。

無理なくできること

小林千春さん

自宅近隣を中心5か所の配達を引き受ける小林さん。ご自分の子どもが小さい頃からいきつけの小児科で多くの子どもたちの姿を見て、当たり前と思っていた体の健康がありがたいと思うようになりました。元気な体を活かし、人の役に立ち、視野を広げたいとボランティアセンターを訪ねました。

「配達の仕事は、自由な時間に応じて負担にならず、無理をしなくていいので続けられる」と肩肘を張らないスタイルがとても好感が持てます。そして「普段家について社会との接点が少ない自分ですが、ボランティアを通して、周りにつながっていると感じています」と小林さんは笑顔になりました。

(取材:武田 厚子)

「かわらばん」 私たちが届けています!

宅へ帰るついでにできるし、元々、車の運転をするのが好きだったので全く苦にならないということを始めました。こんなボランティアもあるのだなという印象だったそうです。気になるのは、毎月入れ替えに行くと、全部無くなっている所と殆ど手つかずの状態で残っている所があること。毎月かわらばんが全部無くなっていることが宮尾さんの願いです。

(取材：茶嶋 宏明)

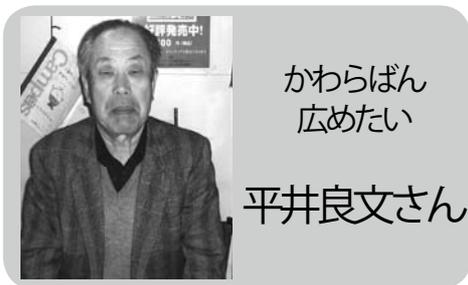


万難を排して
配達準備

岩崎倅明さん

かわらばんと言えば「このひと」の顔が浮かびます。印刷会社から最新号が届くと、お仲間のボランティアさんとともに5千部近くを配達先ごとに手際よく仕分けしていきます。

かわらばんとの出会いは17年前の67歳の時。編集委員に加わったことが退職後のボランティア活動のきっかけとなったそうです。「取材や編集の苦労を知っているだけに、出来たものを少しでも早く読者の方に届けたい」。毎月、段取りに余念がありません。自宅近くの喫茶店に配達した時、コーヒーを飲むのを楽しみにしています。



配達するきっかけは、シルバー人材センターからの勤務先としてふれあい福祉センターの受付を始めた時、かわらばんを読んだこと。もっといろいろな人に「ボランティアセンターはこういうところと知らせたり、ボランティアをしたい方との橋渡しができれば」との思いで始めました。配達先は、以前勤務していた金融関係機関や、自宅が農家であることを活かして、農協の支所へも。時には「今回はこんな内容です!」と一言添えて届けています。「自分の体が動く間は、届け先で話もできるし、始めたことはもう少しやってみよう」と、明るい声でお話しされました。

あれから22年、今でも変わらず続けられているこの活動。高田営業所長の峯村雅人さんは、「自分たちにとつては、当たり前の活動になっていきます。毎月届けている方から、今月はまだ届かないけれど、いつ届くのかしら? と、問合せの電話をいただいたこともありました。楽しみに待っている人がいることで、役にたっているんだなあと思えました。」と、お話ししてくださいました。

この活動は「信毎ふれあい一声運動(※)」につながっています。新聞の配達中に火事やガス漏れを発見して事なきを得たことや、徘徊するお年寄りを保護することもあり、地域を見守る人として、今後も期待されます。

峯村さんの「できる事をやっているだけ、ささいな事です。」が実は、まちの安心を作り出す活動になっていたので。



* 信毎ふれあい一声運動

数年前より長野県下の信濃毎日新聞の販売店で行われている「信毎ふれあい一声運動」は、県内全域に広がる新聞配達ネットワークを生かし、高齢者世帯などで、緊急を要する病人やけが人などの早期発見をめざす地域貢献活動です。新聞が何日もたまっていないなど、普段と様子が違ったら、最寄りの役所窓口などに連絡。病人やけが人の早期発見に努めます。新聞といっしょに安心もお届けする活動です。

小さな活動も、多くの人が関わることで大きな活動へ変化する・・・親子二世代にわたってかわらばんを届ける人、20年以上配っている人、最近はじめられた人、その昔やっていた人・・・など、長い年月の中で多くの人が関わってきた「かわらばん」は、一人ひとりのボランティアの力の結集です。

33年の重みを感じつつ、これからも皆さんの気持ちを大切にしていきたいですね。今日も元気に「こんにちは かわらばんです!」と、誰かの所に届いていることでしょう。

ボランティア
は
かわらばん
とともに

酒井めぐ美
さん

「いつ頃からかしら...? 特に覚えがないのよね・・・」

28年前から点訳のボランティア活動を続けている酒井めぐ美さんは、かわらばんを点訳したのがきっかけでかわらばんを知りました。編集委員のみなさんが一生懸命作っている姿を見て、ボランティアの事を多くの人を知ってほしいという思いになりました。自宅のご近所さん10件と知り合いの病院に配達。「届けた時にありがとうと言われると嬉しいし、ボランティアのことを知るにはかわらばんが一番だから。」と、ボランティアへの熱い気持ちを感じました。

ひとりが皆のために 皆がひとりのために



1月6日(木)、ロシア出身の甘利・ラビナ・オレシャさんの「着物を着てみたい」「日本文化をもっと知りたい」そんな思いがきっかけとなって、『伝統の日本文化にふれて交流しよう』が、市ふれあい福祉センターで開かれました。

参加したのはロシア、中国出身の女性たち、オレシャさんと交流のある市内小学校のお子さん、お母さん、個人でボランティアしたい人、ボランティアグループ「きもの紫の会」「風のウイング」「写団F」の方々37人です。

初めに、髪をきれいに結ってもらい各々好きな着物を選んで着付けてもらいました。その後、座布団を並べて立ち居振る舞いの作法、着くずれた時のなおし方も教えてもらいました。

それから、吊し雛の飾られた部屋で、着物姿でお抹茶を頂きます。その後は記念写真の撮影です。少し緊張気味にレンズの前に立つても、写団Fのメンバーが次々ジョークを飛ばして硬くなった表情を和らげてくれました。

普段感じることのない、着物を着た時の背筋がのびた清々しい気持ちであったり、ゆったりとお抹茶を頂く心穏やかな時間がとても心地よいものです。こうした日本の伝統、文化に触れて改めて日本の良さに気付かされました。

今回の交流会は、着物を貸して頂くことから始まり、髪結い、着付け、茶のお点前、写真撮影などボランティアの得意としている分野を存分に生かした協力があつてこそ実現できました。ひとつのテーマでつながりをみせ、そして新しい輪が広がっていく...そんな事を肌で感じることも出来ました。私自身とてもうれしく参加できました。

今回の交流会は、着物を貸して頂くことから始まり、髪結い、着付け、茶のお点前、写真撮影などボランティアの得意としている分野を存分に生かした協力があつてこそ実現できました。ひとつのテーマでつながりをみせ、そして新しい輪が広がっていく...そんな事を肌で感じることも出来ました。私自身とてもうれしく参加できました。



↑立ち居振る舞いをやってみます。
↑全員そろって写真撮影みんな笑顔!



(取材: 山口 君代)

ただいま 事業 進行中 いきいき会

ボランティア活動振興事業助成金

我々いきいき会は、平成21年4月にシニア世代の仲間15人でスタートし、高齢者福祉施設を訪ね、「あそびりテーション」で交流を図ってきた。

今回、市社会福祉協議会の「活動助成金」に応募し、プレゼンテーションで無事助成が決まった。その内容は、児童施設を訪問する活動を新たに行うもの。

市教育委員会の所管する「放課後子どもプランアドバイザー」の説明会に出席した後、早速12月21日に芹田地区の児童館を訪問した。

我々会員のうち3人が出席、小1〜3年生の児童30人程が賑やかに迎えてくれた。おやつの際に全員と顔を合わせ、館長さんの挨拶のあと、我々から自己紹介。児童達からは興味津々の質問攻めにあ

う。訪問前の心配ごとはずぐに解消してしまい、孫と爺婆(じじばば)の関係になっていった。

ジャンケンポン、毛糸のマフラー編み、カルタ取り、などなど遊びをはじめ、こま回しや、鬼ごっこを一緒にしたり、読み書きや算数の計算の手伝い等々、児童との交流は、時間の過ぎるのを忘れてしまう程だった。

今、児童を取り巻く環境は、就業する母親の増加や核家族化、家族とのふれあい時間の縮小、ゲーム・テレビっ子、いじめ、心の病など課題は山積しており、児童との交流の中にシニアの経験を生かした役割を見つけた様に思う。

さわやかな風の吹く帰路、参加した会員とこれからの実践活動を約束し合った。

(いきいき会 会長 依田光彦)





まちの縁側 発掘 あるある 探検隊

その7 「宅老所おいでなして」

高田にある「宅老所おいでなして」を知ったのは、勤務先の障がい者施設の製品を配達するようになったのがきっかけ。入り組んだ住宅街を歩き辿り着いたその宅老所は1階部分を改造して使用しているため、見た目は住宅そのまま。手作りの温もりが伝わる玄関先の「おいでなして」の木製看板は縁側そのもの。引き戸を開けると利用者さんたちのにぎやかな笑い声が聞こえます。けれど、「おいでなして」を切り盛りする高橋奉子さんの声もそれ以上。

「今日はみんなでそうめんをゆでて食べる」「いま、やしようま作ったからあげる」「これからみんなで温泉行くんだ」・・・面倒見てやる・見てもらう”なんて関係とは無縁の、それぞれ自分の個性そのままに楽しく元気に言いたいことを言い合い、過ごすことができるその空間は元気で温かい高橋さんのお人柄そのものが現れています。なんでも話が早く、断ることなく、惜しみない。お年寄りに限らず、子ども、大人、障がいのある人だって分け隔てせず、目立たずさりげない気遣いで安心感をあたえる、そんな印象の“ひと”です。だから、人が集まらないことなんてありえない！

こんな“ひと”がいるからこんな“縁側”になるというまさにお手本のような「おいでなして」にみなさんもおいでなしては！

(取材：小野 貴規)



1月8日(土)、NPO法人の麦っ子広場の新春ミニコンサートに行ってきたよ。麦っ子広場は、障がい児の余暇活動として音楽を柱に活動をしていて、昨年設立18周年を迎えたんだって。ミニコンサートは、今年が2回目。

いつもくんが行く！ 麦っ子広場 ニューイヤーコンサート in サンアップルホール

トップバッターは60代の男性8人の「イースト」が、ジャズのスタンダードを4曲披露してくれたよ。すっごく上手でみんなノリノリで手拍子♪だったよ。次は、結成13年目を迎えた「虹の小箱」。日本全国や地元民話をすべて手作りの大型紙芝居を使って語る活動をしているんだって。この日は季節に合わせたお話「ネコとネズミ※干支のお話」と、「かさじぞう」だったよ。周りは雪が積もった寒い日だったけど、こころ温まるお話だったな。もう1つの出演は、女性8人のコーラスグループの「エコーリラ」。かっこいいお揃いの衣装で、きれいな歌声を披露してくれたよ。会場に来ているみんなも知っている曲を、一緒に歌ったんだ♪



盛り上がったまま、最後は麦っ子広場の音楽グループ「むぎ&たんぽぽ」の合唱とダンス！ お揃いの黄色いトレーナーを着た30人以上のメンバーがステージいっぱい登場！歌にはすべて振付けが付いていて、みんなは楽しそうに歌ったり、踊ったりしていたよ。最後に会場に来ていたお客さんも一緒に「ピリッブ」を歌って終わったんだ！ なんだかアットホームな感じで、温かくなるコンサートだったよ！ 今度は、友達を誘って行ってみよう♪

現場状況 2月分

(取りまとめ期間：1月16日～2月15日)

相談件数	
ボランティアしたい	19件
ボランティア求む	9件
情報求む	11件
ボランティア活動支援	11件
ボランティア活動上の悩み	2件
よろず相談・悩みごと	5件
ボランティア保険・事故処理	5件
その他	4件
合計	66件

問い合わせ件数	
会議室予約	335件
伝言	57件
情報提供	246件
機材貸し出し	260件
チラシ・掲示板	91件
その他	197件
受付(よりいい会等)	371件
合計	1557件

その他	
情報カード受付	30件
機材貸し出し	17件
ボランティア保険加入	
ボランティア活動保険	13件
行事務用保険	9件
在宅福祉サービス総合保険	0件
送迎サービス補償保険	0件
合計	22件

ボランティアかわらばん 3月号は2月28日(月)発行予定。
記事掲載希望は2月16日(水)までに原稿をお寄せ下さい。

情報かわらばん

募 集

第8回長野灯明まつり 運営ボランティア募集

作り手側として一緒に楽しんでみませんか？

日 時:2月5日(土)から2月13日(土)
場 所:善光寺周辺
対象者:18才以上の方
参加費:無料

問:(社)長野青年会議所(江藤昌弘)
TEL:026-228-3260
FAX:026-228-3278
HP:<http://www.nagano-jc.jp/>



若穂ジュニアフリースポーツクラブ 指導者募集

若穂ジュニアフリースポーツクラブは、文字通り「子どもたちが自由に運動する」ことを目的に、10年前に設立されたクラブです。特定のスポーツを行なうのではなく、子どもたちが自主的に楽しく体を動かす場の提供を目指しています。

現在、このクラブでは指導者を募集しています。興味を持たれた方は、2月18日(金)・2月25日(金)・3月4日(金)・3月11日(金)のうち1日、下記活動時間内に活動場所にいらしてください。

日 時:毎週金曜日(祝日を除く) 17:30 ~ 19:30
場 所:川田小学校体育館
(長野市若穂川田2020、最寄り駅:長電信濃川田駅)
内 容:一連の準備運動のあと、ドッジボール・キックベース・ミニサッカー・マット運動・跳び箱などを行い、最後に体育館の雑巾がけをする。

問:若穂ジュニアフリースポーツクラブ(手塚和枝)
TEL:090-3063-0233
(平日できれば18:00 ~ 21:00)
E-mail:s.ko-all7best2sishe-k.ko-dorm@docomo.ne.jp

紙芝居の舞台(木枠)を作って下さい

体験談や民話を創作紙芝居に作って上演しています。紙芝居を入れる舞台(木枠)を作ってくれるボランティアさんを募集します。材料代は会で用意します。

問:かがやきひろば三陽 しろと紙芝居の会
TEL:026-259-2411

寄 付

書き損じハガキを寄付してください!!

お家で眠っている書き損じハガキや未使用の年賀状をボランティアセンターに寄付してください。「ボランティアかわらばん」の発行やボランティア養成講座など、ボランティアセンターの運営を支える資金として使わせていただきます。

問:長野市ボランティアセンター (小林)
TEL:026-227-3707



ご寄付ありがとうございました!

ハガキ、切手、テレフォンカード、ベルマーク等
12月16日~1月23日分

青木久枝、宮沢俊夫、宮下廣喜、内田卓馬、松下信彦、丸山哲也、永野誠、酒井八郎、松本良枝、サーティーママ、やまびこ会、ハーモニー桃の郷、老人福祉センター東北憩いの家、わくわくひろば、前田鉄工所、長野中央郵便局、(財)長野市勤労者共済会、厚生課篠ノ井分室、長野都市ガス

かわらばんここに置いてあります!

手作り洋菓子 エルシャンテ

中御所の住宅地にある洋菓子店エル・シャンテ。

売り場担当のユミコさんは、体調を崩して心の病になったことがありました。外に出かけることを医師に勧められ、その時に会ったのがボランティアセンター。話を聞いてもらったり人とのつながりの中で力をもらい、今ではすっかり復調。その恩返しの気持ちで自分ができることをと、店内で情報スペース(小テーブル)を設けることにしました。「かわらばん」を置くことで何かお手伝いができたと始めました。

美味しいケーキを買ったあと、かわらばんを読みながら小休止することもできます。地元の無農薬かぼちゃを使ったポティロン(しっとりかぼちゃケーキ)は優しい美味しさです。お客様の心を和ませ、ちょっと疲れたときにはホッとさせてくれるお店でした。

(取材 込山哲也)

長野市中御所2-27-4
マンションタウ1F
026-224-4000
月曜定休 10:00 ~
19:00



情報かわらばん

イベント

第233回 ロビーコンサート

演奏会へ多数出演している武蔵野音楽大学を卒業した仲間が集まり、名作オペラの中から名曲アリアや重唱を歌います。寒い冬の一夜の熱い歌声をお楽しみ下さい。

日時:2月4日(金) 18:30開演
場所:八十二別館 1階ロビー
参加費:無料

問:(財)八十二文化財団
TEL:026-224-0511



ドキュメンタリー映画

「ミツバチの羽音と地球の回転」映画上映会

「ミツバチの羽音と地球の回転」は、自給自足の暮らしを営む瀬戸内海祝島の島民が、宝の海を守るために28年間原発建設に反対している「地域の力」をとり上げたドキュメンタリー映画です。未来のエネルギーをどうするのか?環境先進国スウェーデンでのエネルギーシフトによる持続可能な社会づくりと日本の現状が対比的に描かれています。

日時:2月11日(金・祝) 朝の部... 9:30 ~ 受付
昼の部... 14:00 ~ 受付
夜の部... 18:00 ~ 受付

場所:東部文化ホール(柳原公民館併設)
講師:トークゲスト 鎌仲ひとみ監督
参加費:大人 前売り1,000円 当日1,200円
学生500円 中学生以下無料

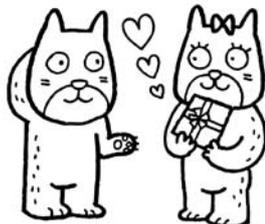
問:わ!ながの(小田切)
TEL:090-4424-6509
FAX:026-262-1204
E-mail:wanagano888@gmail.com
URL:http://wanagano.naganoblog.jp/

虹色ふれあい朗読会

「語り」と「音楽」のコラボレーション。6団体が語ります。琵琶の演奏もあります。

日時:2月20日(日)12:30 ~
場所:南部図書館 2階 大会議室

問:篠ノ井有線放送
TEL:026-292-0080



冬の遊びフェスティバルin長野 ~ 会いつながり広がる子育て仲間 ~

みんなで子育ての新しい支え合いの仕組みや、それらをつなぐネットワークについて考え、子育て中の親子や子育て支援者が会いつながる場です。

講演会や、ミニサーカス劇場、相談コーナー、あそびの体験広場など親子でたっぷり1日楽しめます!

日時:2月19日(土) 10:30 ~ 16:00
場所:ふれあい福祉センター
講師:NPO法人ふれあいの家一おばちゃんち
渡辺美恵子さん
道化シアター日楽座

対象:子育て中の方、子育て支援関係者など
参加費:無料
メ切:2月11日

問:スコーレ家庭教育振興協会(小林定子)
TEL:026-282-5396

講演会・講座

信州特別支援教育カンファレンス

実践報告、アセスメント、AAC(補助代替コミュニケーション)、身体とコミュニケーション ほか

日時:2月11日(金・祝)、12日(土)
場所:稲荷山養護学校
対象者:どなたでも
参加費:1000円

(1日のみの参加でも参加費は変わりません)

問:更埴地区特別支援教育研究会(杉浦)
FAX:026-261-3453

講演会と交流会

精神福祉を考える、ストレスを力に変える思考術です。いろいろ応用できる認知療法のお話です。

日時:2月12日(土)
場所:長野市保健所 2階会議室
講師:大野 裕 慶応大学医学部教授
定員:100人
参加費:無料

問:長野社会復帰促進会(飯島富士雄)
TEL:026-283-1141

2011年

2月

ボランティア かわらばん



ボランティア情報誌

発行所 / 〒380-0813 長野市緑町1714-5 長野市ボランティアセンター内
Tel:026-227-3707 Fax:026-224-1513
URL <http://vnetnagano.or.jp> E-mail :volucen@vnetnagano.or.jp

ボランティア活動みほん市 in 柳原 参加団体募集!

昨年開催された「ボランティア活動みほん市」では、139のグループ(事業)のポスターが展示され、230人も人が集まりました。そこで、出会いつながり、広がった活動もありました。

そして、今年も実行委員会を立ち上げ、みほん市を開催することになりました。地域のボランティア活動の基盤

をつくるために、そしてひとり一人、一つひとつの個人団体がつながって線となり、その線が縦横無尽に交わることで面となるために、さまざまな人達が集まります。みなさんも自分たちの活動を発信しましょう! 思ってもみなかった出会いがみなさんを待っています。



と き: 3月21日(月・祝)10:00 ~ 15:00

ばしょ: 柳原総合市民センター

参加費: 無料

内 容:

◆1 部・・・活動みほん市めぐり

自由に活動ポスター(☆)展示を見てまわり、自分の活動とつながる赤い糸を探してみよう。体験コーナーや販売もありますので、いろんな人と交流しましょう!

☆活動をしているグループのみなさんにはポスター展示をお願いします。

◆2 部・・・ご近所で集まろう(仮称)

ご近所どうし、それぞれ集まって本音で語り合います

◆まとめ・・・新たな発見ができる“赤い糸探し”(仮称)

みんなどんな話をしたんだろう? お互いの意見を聞いてみよう。

♪ポスターづくり講習会♪

活動の想いを伝えるために、模造紙を使って活動の目的やその様子をわかりやすく発表できるポスターづくりの方法をみんなで学びます。

と き: 3月8日(火)13:30 ~ 16:00

ばしょ: ふれあい福祉センター 5階ホール

参加費: 無料(模造紙ほか材料は準備します)

持ち物: 活動のようすがわかる写真やパンフレット

申込〆切: 3月2日(水) 長野市ボランティアセンターまで

TEL: 227-3707

